



農業を始めました!

～人生の選択とワーク・ライフ・バランス～

ベリー・ベリー・ヤミー／土遊野／ハーブ・ファーム富夢創野

男女共同参画とやま市民フェスティバル2015 開催

男女共同参画推進センターからのお知らせ



ブルーベリー 観光農業を 始めました!



転職が珍しくない今の時代。違う世界で新たな一歩を踏み出す人も増えています。今回は、自分らしい生き方を求めて「農業」を選んだ3人にインタビューし、人生を豊かに生きるヒントを男女共同参画の視点から探ります。

Life in agricultural



ベリー・ベリー・ヤミー
落合良幸さん

富山市内が一望できるブルーベリー観光農園を2015年6月20日にオープンさせた。8歳の娘と4歳の息子、妻の4人家族。千葉県出身。

富山市八尾町松原253-3
<http://berry-very-yummy.com/>



農園を始めたきっかけは？

4年前に、勤務していた製薬会社を退職し、ブルーベリー農園を開くことにしました。きっかけは娘です。娘を連れていろんな場所に出かけるようにしていたのですが、「キッザニア東京」を訪れたことから、娘は、獣医という将来の夢を見つけました。そんな娘の姿を見ているうちに、私も子どもに夢を与えられるような、キッザニアのような場所を富山に作りたと思うようになりました。そして、富山の豊かな自然が生かせるものは「農業」だと考えて、自然と触れあって収穫体験ができる、この農園を開くことにしました。また、子どもたちが夏休みに遊びに来て収穫できるフルーツは何かと考えてブルーベリーを選びました。

転職して苦労したことや、以前の暮らしと比べて変わったことは？

退職後、1年間の研修を経て農園を始めましたが、農業の経験は全くありませんでした。研修先探しから土地探し、資金繰りまで何もかもが手探りの中で、すべてを自分でやらなければなりません。特に苦労したのは農園の土地探しで、8カ月かかりました。また、農園オープンまでに4年かかりましたが、その間はアルバイトをして生活費を稼ぎました。大変なこともありました。以前と比べて子どもとの時間が増えたことは嬉しいことでした。会社員時代は残業が多く、子どもと顔を合わせない日もありましたが、今はずっと一緒にいられます。また、一緒に過ごす時

間が増えたことによって、子どもの態度に変化がみられ、親子の関係がより深まったように感じられました。



農業をするうえで男女の働き方に違いを感じますか？家事や育児の役割分担はありますか？

私は、繁忙期は朝4時に起きて、60アールある園内の掃除やブルーベリーの収穫を行います。いずれは妻と2人で農園をやっていきたいと考えていますが、現在妻は看護師をしているので平日は



仕事に出かけ、週末に農園の手伝いをしてくれています。農園というと重労働のイメージをもたれるかもしれませんが、ここでは特に重労働などはなく、働き方に大きな男女の違いはないと思います。ただ、妻は女性らしい視点できめ細かく園内の掃除などをしてくれています。子育てについては、子どもを保育園に送るのは私で、迎えは妻。子どもをお風呂に入れること、寝る前の本の読み聞かせ、寝かしつけは私がするというように役割分担をしています。



これからの夢や目標は？

ここでは約39品種、約1,000本のブルーベリーを栽培し、ブルーベリー狩りはもちろん、遊具で遊んだり、カフェでくつろいだりして過ごせます。ジャム作りの親子体験教室を企画したり、夏場には子ども用プールを設置したりもしています。この農園を子どもたちの夢を育てる場所、子どもたちが笑顔

になれる場所にしたいというのが私の夢で、いずれはこの場所にレストランやホテル、キャンプ場もつくりたいと思っています。これから先も自分の夢や目標はしっかり持ち続けたいですね。大きな夢ですが、あきらめなければ必ず道は開けると信じています。そして、いくつになってもやればできるという姿を子どもたちにも見せていけたらと思います。



平飼い養鶏と有機棚田米農業を始めました!



土遊野(どゆうの)
河上 めぐみさん

里山をフィールドに平飼い養鶏と有機棚田米を主軸とした農業を行っている。昨年結婚し、夫と両親の4人暮らし。富山県出身。富山市土167 <http://doyuuno.net/>

農業を始めたきっかけは?

大学時代を東京で過ごしていました。東京での生活は楽しかったのですが、当たり前のようにお金を出してお米や水を買うことに違和感を覚えるようになりました。そんな時、両親が経営する『土遊野』で作った卵を紹介する機会がありました。作ったものを届け、食べてもらう。食べ物を作ることが生きていくために必要な仕事だと感じました。お金で買うことは簡単ですが、一から作るのは大変なことです。担い手不足が進む中、「食べて生きる」という大切な部分を他の誰かに任せたままでいいのかという思いにかられ、自分がやるべきことは農業なのではないかと感じ、地元富山に戻って始めてみようと思いました。



楽しいと思うことや苦勞したこと、生活や気持ちの変化は?

土遊野では米や卵のほか、野菜、パンやケーキの加工品も作っています。また鶏肉、アイガモの食肉販売にも挑戦しています。作ったものはレストランへ卸したり、直売や配送も行っています。取引先に合わせ新しい野菜を作るなど、元々あった事業に私なりの視点を加え展開しています。

仕事を辛いと思うことはなく、楽し

みながらやっています。しかし、天候など、コントロールできないものに左右される点は苦勞します。

卵からヒナがかえった時、作物が実った時、美味しいと食べてもらえた時など、自分がやってきたことが成果となって目に見えるのは嬉しいです。ただ自分の仕事ぶりが結果に直結するので、仕事に言い訳が通用しないという厳しい面もあります。

私生活では昨年結婚しました。独身の時よりなかなか口に出せないような辛いことなどを話し合えたりして、精神的に支えられていると感じています。夫は結婚を機に脱サラし、農業を始めました。夜遅くまで働いていたサラリーマン時代より今の方が人間らしい生活ができて生きがいを感じると思っています。今は仕事の合間に趣味のフットサルも楽しんでいます。



農業をするうえで男女の働き方に違いはありますか？家事などに役割分担はありますか？

農業は肉体労働であり、男性との体力差を感じることは確かにあります。しかし、機械を使ったり作業を工夫したりしているので、働き方に大きな違いは感じていません。農業には様々な作業があります。性別に関係なく個々の能力を生かした分野で活躍できるので、そういう面で農業は多くの人を受け入れられる可能性があると思います。またそれが農業の魅力でもあると思います。

家庭でも役割分担はありません。できる時にできる人がするというスタイルです。農繁期には家事を後回しにしてしまうことがありますが、夫はそん

な私の性格も理解してくれており、お互いに気がついた時や余裕のある時に家事を行うようにしています。



これからの夢や目標は？

私はもっと多くの人に農業に触れてもらう機会が必要だと感じています。土遊野では毎年研修生の受け入れをしています。そんな機会をもっと増やしていき、実際の現場の楽しさ、大変さ

を伝えていくのも私の仕事だと思っています。また、気軽に訪れることのできるカフェなどの場所を作り、社会と農業の距離を縮めていきたいと思っています。経営者としての立場からは、スタッフが働き続けたいと思えるような職場環境を作っていきたいです。

プライベートでは、今2人の新居を夫の設計で建てる計画をしています。どんな家を建てるか生活を思い描きながら考えるのが夫と私の楽しみになっています。



ハーブ栽培と カフェを 始めました!



ハーブ・ファーム富夢創野(トムソーヤ) 有澤 久志さん

平成10年にハーブ農園を開く。
富夢創野には「富山で夢を実現させたい。夢を創り始める場所(野)にしたい」という思いが込められている。
1ヘクタールの土地で600種類のハーブを栽培。カフェも運営。妻と小学5年生の娘の3人家族。富山県出身。

富山市池多800
<http://tomsawyer3.blog58.fc2.com/>



農園を始めたきっかけは?

大学卒業後、東京で映像関係の仕事をし、充実した毎日を送っていました。しかし30歳の頃、悪性リンパ腫という病気の疑いで入院しました。幸い検査結果は良性で徐々に回復していきました。入院中、重い病気と闘っている方たちを目の当たりにし、自分は人のために何ができるのかと考えさせられました。このことが転機となり、農業に興味を持ちました。東京の就農学校に週末通い、そこでハーブが免疫力を高める植物と知りました。36歳で会社を辞め、岐阜のハーブ園での研修を経てハーブ・ファーム富夢創野を開きました。



楽しいと思うことや大変 だと思ふことは?

6月~7月はラベンダー畑の摘み取りで賑わいます。カフェではハーブティーなどを販売しています。この季節は朝4時30分に起床し、収穫などの農作業から1日が始まります。夕方には時間をかけて水やりを行います。この時間が植物との会話、自分との対話、また地域のことなどを考え、見つめ直す貴

重な時間となっています。仕事は素直に楽しく、植物が好きなので頑張れます。始めて18年経ちますが大変だと思ったことはありません。お客さんに喜んでいただくという点では前の仕事と変わっていません。要望に応えることはやりがいであり、勉強にもなります。また、それに伴い技術力を高めることができ、生産性や価格の向上に繋がっていると思います。

仕事をする上での家族の 在り方は?

小学5年生の娘がいますが、この仕事がかき付けで学校の保護者との付き合いや地域との繋がりが深められ、今



では小学校のPTA会長をしています。娘のおかげで知り合いもたくさん増えました。夏休みの8月は仕事が休みなので思い切り娘と遊びます。この仕事をしているからこそできることです。

妻も一緒に働いており、カフェで出すケーキやジャムを作ってくれています。また、ハーブを専門的に学び、ハーバリストの資格を取りました。その資格を活かし、お客さんと色々な会話をしながら体調に合うハーブの選定などを行っています。この仕事の良い所は家族と一緒に過ごす時間が多いということです。家族との時間を大切にしながら働くというライフスタイルを続けていきたいです。



これからの夢や目標は？ またこれから目指す方への アドバイスは？

30歳のころの体験により、健康でいられることのありがたさ、生きていることのありがたさに気付かされました。これからもその時々で感じることを感じるがままに、自分を信じて進めていきたいと思っています。その過程で方向転換したり、変化したりすることも

楽しんでいきたいです。「無理」「大変」と言われることの中にもたくさんの可能性が潜んでいます。その中に好きなことを見つけられればラッキーです。就農したいと思っている方は、自分の好きなことを、自分の思いを信じてやると良いと思います。なにより継続することが大切です。そこから広がり、やりたいことが見つかることがありますから。





男女共同参画とやま 市民フェスティバル2015

入場無料 (事前申込が必要) **定員先着300名**

参加申込方法 郵送、FAX、Eメールまたは直接、郵便番号、住所、氏名、電話番号を、男女参画・ボランティア課(〒930-8510 宛先の所在地不要:市役所3階)へ。
詳細は、男女参画・ボランティア課または各地区センターにあるチラシをご覧ください。
チラシは市ホームページからダウンロードすることもできます。

男女共同参画とやま市民フェスティバル2015

プログラム

■ **開会セレモニー**
男女共同参画社会づくり作文コンクール表彰式

■ **講演&ミニライブ**
「女(ひと)と男(ひと)の
よりよい関係」

講師/山本コウタロー氏
(フォークシンガー・白鷗大学教授)



日時

平成27年
10月25日(日)
午後1時30分~
(開場 午後1時)

場所

富山市民プラザ
4階アンサンブルホール
(富山市大手町6-14)



主催・お問い合わせ/
富山市民男女参画・ボランティア課
富山市新桜町7-38 TEL(076)443-2051 FAX(076)443-2176

男女共同参画推進センターからのお知らせ

各種相談を
行っています

相談日程は、毎月、
広報とやま20日号で
案内しています。

◎DV(夫・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。ひとりで悩まず、ご相談ください。
DV相談 専用電話 TEL433-2210 ※来所相談については、電話予約をお願いします。

◎弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

◎女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

男女共同参画講座を
開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。
詳細は広報とやまに随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

問い合わせ先 富山市民男女共同参画推進センター(CiC3階:新富町一丁目) TEL433-1760

編集
後記

生 生きることの基本となる「農業」。好きな仕事に打ち込みながら、家族との時間を大切にしていこうと3人の姿が印象的でした。私も自分なりにバランスをとって、仕事と家庭を両立していきたいと思いました。(春日編集委員)

新 新しく編集委員に加わり3か所の取材先に行かせていただきました。どの取材先も富山平野が広がり立山連峰が眺められる富山らしい場所のみなさんイキイキ仕事をしていらっしゃいました。明るく清々しい姿に感銘を受けました。(坪田編集委員)

取 材を通して、「個性を活かしながら働くことができる」という新たな農業の魅力を知ることができました。また、皆さんがそれぞれの人生目標を持って農業をやっておられ、私も目標を持って人生を歩んでいきたいと思いました。(松尾編集委員)

この号の発刊に際しまして、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

あいのかせ

“あいのかせ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

■編集・発行

富山市民生活部
男女参画・ボランティア課

〒930-8510 富山市新桜町7-38
Tel. 076-443-2051 Fax. 076-443-2176
E-mail: danjyo-volun@city.toyama.lg.jp